

福 井 県 医 師 会

だより

第673号 平成29年(2017)7月



ムラサキヤシオツツジのお出迎え

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：ムラサキヤシオツツジのお出迎え

福井市 石黒 信彦

白山登山道の中で、別当出会を出発点とするルートに観光新道と砂防新道がある。前者のほぼ中央の稜線に所々でムラサキヤシオツツジが見られる。この年は丁度見頃な花が多く、特にこの花木は私を待っていてくれたかのように、満面の笑みを浮かべて迎えてくれた。別山を背景に入れて、ゆっくりとシャッターを押した。

醫 縫 録

院長就任にあたってのご挨拶

福井県立病院長 橋 爪 泰 夫



平成29年4月1日福井県立病院の院長を拝命しました。就任にあたり、一言ご挨拶させていただきます。

石川県金沢市の出身で、昭和56年3月に金沢大学医学部を卒業し、金沢大学第一外科（現先進総合外科）に入局しました。昭和57年6月に福井県済生会病院外科で約1年間研修を積みました。当時の県立病院は、山崎信先生を中心に県内の胃がん診療において早期発見・早期診断・早期治療の重要性を掲げ、検診、診断から手術等を一手に引き受け、優秀な治療成績を上げている病院と、強く印象付けられました。この姿勢は、今でも引き継がれ、当院の診療体制の根幹であることは言うまでもありません。県立病院へは、平成22年4月に外科長として金沢市立病院より転勤してまいりました。その後、中央医療センター長を2年、副院長職を3年経て今日に至っております。医師会活動は、福井市医師会で学術担当理事を1期、福井県医師会で勤務医担当理事を1期務めさせていただき、地域の医療事情の取得や会員の先生方との交流など、貴重な経験を積むことが出来、感謝しております。

当院は、今年度が最終年度となる第6次福井県医療計画において、がん・脳卒中・心筋梗塞等の心疾患・糖尿病・精神疾患の5疾病と救急医療・災害医療・へき地医療・周産期医療・小児医療の5事業を担う急性期病院に位置づけられています。臓器別診療体制を有する中央医療センターを核として、優秀な医療スタッフの確保や高度な医療機器の整備充実を図り、重篤な患者さんや複数の合併症を持つ患者さんに対応する病院として、県全域を診療圏とする最後の砦としての医療を提供しています。また、経営改善を図りつつ、平成28年1月から7対1看護体制を導入し、県民の安全・安心を支える基幹病院として、機能を強化しています。さらに、平成28年4月に放射線治療棟を増

築し、最新鋭の放射線治療装置を導入、陽子線治療とともに、がんに対する放射線治療に積極的に取り組んでおります。

今年度は、昨年4月の脳心臓血管病センター開設に伴い、その機能強化の目的で放射線検査・治療と手術を合わせて行えるハイブリッド手術室の整備や、こころの医療センターの病棟の再編・整備を行い、精神科の急性期医療に積極的に取り組む予定です。

最近、社会や医療を取り巻く環境は急激に変化しています。少子高齢化の進展、医療技術の進歩、医療提供の場の多様化等により、医療に対して「量」から「質」の向上がより重視され、求められています。「治すだけの医療」から「治し支える医療」へ、「病院完結型」から「地域完結型」への流れが確実に押し寄せてきています。団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、病床の機能分化・連携、在宅医療・介護の推進、医療・介護従事者の確保・勤務環境の改善など、切れ目のない質の高い医療・介護の提供が求められています。このような状況で、病院機能のさらなる充実に努め、県民のみなさまが「健康長寿の福井」で安心した毎日を過ごせるような地域医療を維持するため、当院では公立病院としての在り方を真摯に求めていきます。そして、これからも患者さんやご家族にとって納得のいく「良質で安全な医療」を提供できるよう努めてまいりますので、医師会の先生方には今後ともご指導のほど、よろしくお願い致します。